

2024 年度 国際保健医療論開講予定

2024 年度の国際保健医療論は、国際保健医療にかかわる実地経験を踏まえたオムニバス講義により、さまざまな側面から、国際保健医療の実情や問題点を理解してもらうことを目的として実施します。2025 年 2 月、以下のスケジュールで、オンラインまたはハイブリッドで実施します。ハイブリッドの場合の教室は、国際協力研究科の建物の 206 教室となります。オンラインアクセス情報は BEEF+ に掲載します。

日付	時限	タイトル / 概要	担当講師	形式
2/6	1 限	主旨説明、調査とコミュニティ オセアニア農村部でコミュニティでの健康調査をした事例の紹介。何が問題となり何がわかるか	中澤	オンライン 08:50-10:20
	2 限	ワクチンによらない国際感染症対策 ワクチンによらない感染症対策の例とし、Neglected Tropical Diseases (NTDs) 対策を紹介します。 回虫などの寄生虫症は、感染者数が多い疾患で、有効な治療薬もありますが、マラリアやエイズと言った、死亡者の多い感染症の影に隠れ、世界的な対策は進んできませんでした。しかし、今世紀に入り、これらの一連の疾患、NTDs の対策は、WHO の主導のもと、企業や NGO なども巻き込んで、めざましく進んでいます。	大前先生	オンライン 10:40-12:10
	3 限	疾病構造の変化の中での国際保健 世界の保健/医療事情が変化する中で、1990 年代にされた予測と 2019 年に実際確認された変化について、比較します。 1990 年代に予測されたように、途上国の多くで、心疾患、脳血管疾患、閉塞性肺疾患 (COPD) などの生活習慣病が増加しました。一方、途上国でも Low-income countries では、下痢症やマラリアなどの感染症も大きな問題で、Middle-income countries との間の格差が拡大しています。	大前先生	オンライン 13:20-14:50
	4 限	地球上から感染症をなくす①：ワクチンと予防接種を用いた国際感染症対策の概要 【概要】“地球上から感染症をなくす”というテーマで、WHO (世界保健機関) の感染症対策、とくにワクチンと予防接種を用いた 20 世紀の国際感染症対策 (1960 年代～1990 年頃まで) について話をします。第一回目の講義では、ワクチンと予防接種を用いて対策を立てることのできる感染症、天然痘世界根絶事業、世界予防接種拡大事業 (Expanded Programme on Immunization、1974 年に WHO によって開始された) についてお話をします。	高島先生	オンライン 15:10-16:40
2/13	1 限	病気の概念と病気への対処方法 一般の人が感じる病気と医療者が判断する疾病の違いを理解し、病気に対する対処方法の文化による差異と文化を超えた共通点について学ぶ。	塚原先生	ハイブリッド 08:50-10:20
	2 限	開発途上国における小児の栄養課題 : パプアニューギニア農村部で行った離乳食調査の結果に基づき、開発途上国における乳幼児の栄養課題について考える。	塚原先生	ハイブリッド 10:40-12:10
	3 限	開発途上国におけるマラリア対策 : マラリア対策の歴史と現状、およびパプアニューギニア農村部で行ったマラリア調査の結果を踏まえ、マラリア根絶の可能性について考える。	塚原先生	ハイブリッド 13:20-14:50
	4 限	開発途上国における医療サービスへのアクセス : パプアニューギニア農村部における医療サービスへのアクセスの変遷を振り返り、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のための条件について考える。	塚原先生	ハイブリッド 15:10-16:40
2/20	1 限	検疫と新興再興感染症 国内に、新たな感染症の病原体を持ち込ませない検疫は、国際保健の歴史の中で大きなウエイトを占めてきました。 新型インフルエンザ (2009 年～)、デング熱 (2014 年)、Covid19 (2019 年～) など、国内流行した新興再興感染症を中心に、主に流行パターンと検疫という観点から、比較して考えます。	大前先生	オンライン 08:50-10:20

	2 限	地球温暖化の中での国際保健 地球温暖化への対応は、今や地球上全ての地域で、喫緊の課題となっていますが、その被害は、熱帯・亜熱帯の国々の貧困層で、もっとも大きいとされています。 中米やスリランカなど異なった地域で、高温にさらされる農業労働者に共通して、慢性腎障害が見られ、ILO も危機感を持っています。	大前先生	オンライン 10:40-12:10
	3 限	インドネシアで実施しているウイルス感染症に関する共同研究について インドネシアで実施している国際共同研究を紹介し、これまでアイルランガ大学熱帯病研究所の複数の研究グループと現地に流行するウイルス株の分子系統解析やウイルスによる病原性発現機構に関する基礎研究を実施してきました。これらは研究感染症研究国際展開戦略プログラム(J-GRID)の範疇で行った国際共同研究ですが、そのプログラムの概要と主な研究成果について解説します。	亀岡先生	オンライン 13:20-14:50
	4 限	日本政府が実施する保健医療分野の開発援助 本邦政府から他国の政府への援助は、国や地域に直接行う「二国間援助」と、国連機関等への拠出金を通じて行う「多国間援助」に大別されます。この講義では二国間の枠組みで実施される技術協力および無償資金協力/円借款に焦点をあてて、その実際と課題を取り扱います。	松井先生	オンライン 15:10-16:40
2/27	3 限	地球上から感染症をなくす②：ポリオ（小児麻痺）世界根絶事業と麻しん排除事業 【概要】“地球上から感染症をなくす”というテーマで、WHO（世界保健機関）の感染症対策、とくにワクチンと予防接種を用いた 20 世紀～21 世紀第 1 四半期の国際感染症対策 について話をします。第二回目の講義では、天然痘世界根絶事業に次いで実施された（されている）、ポリオ（小児麻痺）世界根絶事業と麻しん排除事業の進展、成果、課題から、“地球上から感染症をなくす”という（これは WHO 憲章に含まれている）国際公衆衛生事業の現場・現実からのお話です。	高島先生	オンライン 13:20-14:50
	4 限	地球上から感染症をなくす③：新型コロナウイルス感染症対応・21世紀の国際感染症対策 【概要】“地球上から感染症をなくす”というテーマで、WHO（世界保健機関）の感染症対策、とくに 21世紀の国際感染症対策の現実と課題 について話をします。天然痘世界根絶事業、ポリオ（小児麻痺）世界根絶事業、麻しん排除事業などの進展と成果、課題への取り組みから、世界は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンを用いた対応にそれなり（ある意味で多大な）成果を上げました。いっぽうで、人類・世界は、国際感染症対策において、これまでにない大きな試練に直面しています。その現実についてお話します。	高島先生	オンライン 15:10-16:40
	5 限	総合討論：すべての講義を通じて学んだことを踏まえて、総合討論を行います。	中澤	ハイブリッド 17:00-18:30

【国際協力研究科以外の講師紹介】

大前比呂思先生(茨城保健生協透析科長, 獨協医科大学特任教授)

高島義裕先生(大阪大学ワクチン開発センター・特任教授)

塚原高広先生(名寄市立大学・教授)

松井三明先生(保健学研究科・教授)

問い合わせ先: 中澤 港 <minato-nakazawa@people.kobe-u.ac.jp>